

法學博士神戸正雄君著「租稅研究」ニ對スル授賞審査要旨

本書ハ合計八卷通計約三千頁ニ亘ル浩瀚ノ著作ニシテ、大正八年七月第一卷刊行以來八年餘ヲ費シ、昭和二年十二月ニ至リ最終第八卷ヲ刊行シテ完成ヲ告ゲタルモノナリ。著者ノ租稅及租稅制度ニ關スル半生ノ研究ハ、殆ド漏ス所ナク本書中ニ收メタルモノニシテ、我國ニ於テ此ノ如ク廣汎ナル研究ヲ此ノ問題ニ付テ試ミタルモノハ、未ダ其ノ例ヲ見ズ。本書ノ内容ハ、租稅一般、所得稅、財產稅、收益稅、交通稅、消費稅、地方稅、特殊の課徵、租稅制度ノ九部ヨリ成リ、各部多キハ四十餘篇、少キモ十餘篇ノ論題ヲ收メタリ。凡ソ租稅及租稅制度ニ關スル問題ニシテ、著者ガ研究ノ對象ト爲サルモノ殆ド之ナシト謂フモ不可ナク、其ノ内容ノ廣汎ニシテ、取材ノ豊富ナルト、其ノ涉獵セル文獻ノ、内外各國ニ涉リ殆ド殘ス所ナキトハ、著者ノ努力精勵ノ拔群ナルコトヲ示シテ餘リアリ。此ノ點ニ於テ本書ノ學術的價値ノ大ナルコトハ、既ニ明白ナリ。更ニ各篇ニ付テ之ヲ見ルニ、其ノ價値必ズシモ同一水準上ニ在リト謂フヲ得ズト雖モ、其ノ共通ノ特長ハ一問題ヲ捉フル毎ニ、廣ク關係文獻及關係事實ヲ蒐集精査シ、絶エズ考慮ヲ本邦租稅及租稅制度ノ實狀ニ注グト共ニ、具ニ先覺諸學者ノ研究ヲ檢討シ、之ニ基キテ自家ノ推論ヲ下セルコトニ在リ。其ノ所論風發草厲ノ趣ナシト雖モ、穩健周到、微ヲ盡シ、細ヲ極ムル點ニ於テハ、殆ド他ノ追從ヲ許サルモノアリ。今各篇中殊ニ注目スベキニ三ヲ擧グレバ、本邦當面ノ重要問題トシテ、直接稅中經常及臨時財產稅ニ關スル爭點、間接消費稅課稅方法ノ改正ニ關スル根本問題、地方財源中從來閑却セラレタル特別課徵及住居稅ニ關スル諸事項、

一般税制整理ニ關聯スル諸問題等ニ付キ、實証的研究ト理論的考察トニ基キテ、實際財政ノ賴ルベキ方針ヲ示シ、科學的論究ノ問題トシテ、租稅配分原則ニ關シ、所謂負擔能力ニ重キヲ置クニ過グルノ不可ナル所以ト、所謂公益原則ノ決シテ輕視スルヲ許サバル所以トヲ明ニシ、直接消費稅ニ關スル諸通說ノ檢討、相續稅ニ於ケル累進原則以外ノ諸原則ノ考察ニ付テモ、亦通說ニ囚ハレズシテ、自家獨特ノ見解ヲ立テ、其ノ他租稅ノ負擔ニ關スル研究ニ於テハ、國民經濟生活ト租稅制度トノ交渉、及物價變動ト租稅ノ公平トノ關係ニ付キ、精細ナル考查ヲ爲シ、重複課稅ノ問題ニ付テハ殊ニ現下國際上ノ重要問題トナレル、國際的重複課稅ニ付キ、歐洲ノ學者ノ未ダ疾呼セザルニ先テ、夙ニ之ニ著眼シテ問題ノ所在ヲ我學界ニ展示シ、地方稅問題ニ關シテハ、全般ノ解說ノ外ニ、其ノ改革ニ關スル自家ノ提案ヲ掲ゲタルガ如キ、何レモ著者ガ殊ニ力ヲ用ヒタルモノニシテ、其ノ所說必ズシモ間然スル所ナキニアラズト雖モ、其ノ何レニ於テモ、著者ハ理論的研究ノ方針ヲ一貫スルト共ニ、深ク實際事情ヲ考慮シ、實際問題ニ關シテハ毫モ獨斷抽象ノ跡ナク、常ニ兩端ヲ極メテ其ノ中正ヲ得ルコトニ努メ、科學的研究ニ於テハ、從來ノ諸學說ニ比シ進歩ノ痕著シク、西洋諸學者ノ未ダ攻究スルコト及バザル點ニ付キ、自家研究ノ結果ヲ示シタルモノニシテ、學術上誠ニ得易カラザル業績ヲ擧ゲタルモノト謂フベシ。

之ヲ要スルニ、本書ノ學術的價值ハ、廣ク租稅及租稅制度ニ關スルアラユル問題ニ付キ、綜合的見地ニ立チテ、著者ノ絶倫ノ精力ヲ從横ニ發揮シ、普ク文獻ヲ涉獵シ、事實ヲ精査シ、穩健公正ノ態度ヲ以テ、詳密ナル理論的研究ト實證的檢討トヲ遂ゲタルノ點ニ在リ。

正誤表

頁	行	正	誤
二〇	終リヨリ七	窮メテ極	テ
三	〃	縱横	〃
四	二	函數論	〃
五	〃	テニシテ	〃
六	三	困難ナルト	ナリ
六	〃	一行ヲ二行ニ一行ヲ一行ニ改ム	〃
七	〃	シタルノミ……シタルノミ……	〃
七	二	多クソノ多ク	〃
九	〃	50.8	50.5
〇	七	トコト	ヨロ
〃	七	炭素問	炭素問
二	四	モノアリト	モノアリト